ネットコンファレンスの日時、説明者他：

日時	2023 年 11 月 8 日　16:00～17:00
説明者	代表取締役専務執行役員 CFO 中島 一
説明資料	2023 年度第 2 四半期決算の概要 及び 2023 年度業績予想の概要

Q&A

■ライフ＆ヘルスケア・ソリューションセグメント

Q1. ライフ＆ヘルスケアソリューションの上期実績が見通しから減益となった理由について説明してほしい。

A1. ビジョンケアにおいて顧客での在庫調整が発生しておりましたが、在庫調整にかかる期間が 1Q から 2Q まで長引いたことで販売数量が減少しました。農薬については一部輸出が下期にずれ込んだことにより販売数量が減少しました。

Q2. ライフ＆ヘルスケアソリューションが上期から下期にかけて増益する理由を説明して欲しい。

A2. ビジョンケアについては流通在庫調整が 2Q まで続いたものの、足元で販売数量は回復傾向に入っており、下期は増益を計画しております。農薬は一部流通在庫調整の影響で 1Q の輸出が減少したものの、2Q から回復傾向にあり、下期は引き続き南米、インド、中国等の販売数量の伸びを見込んでおります。4Q は国内需要期を迎えることに加えて為替の影響も見込んで、下期は増益を計画しております。

Q3. ジノテフラン、テネベナールの販売動向について説明して欲しい。

A3. ジノテフラン、テネベナールについては海外向けが伸長しております。23 年度年間の販売計画は、ジノテフランにつきましては 22 年度から 10%程度増販、テネベナールは上市国の拡大により大幅な増販を見込んでおります。

■モビリティソリューションセグメント

Q4. モビリティソリューションのＰＰコンパウンドおよびタフマーの上期および下期の販売数量について説明して欲しい。

A4. タフマーにつきましては太陽電池封止材向けが堅調に推移しております。ＰＰコンパウンドにつきましては、上期は対前年で 10%弱の増販となりました。地域別では北米および日本は増販、欧州、アセアンはほぼ横ばいで推移しました。23 年度年間も対前年で北米、日本を中心に全体で 10%弱の増販を計画しております。

Q5. モビリティソリューションのＵＡＷストライキ影響について説明して欲しい。

A5. ＵＡＷのストライキにつきましては下期にマイナス影響を見込んでいるものの、あまり大きな影響とはみておりません。19 年度のストライキの際は 10 億円に満たない影響でありましたが、今回はそれと同等か下回る程度の影響と考えております。

Q6. モビリティソリューションのソリューション事業で受注増となっている理由およびモビリティの川下戦略について説明して欲しい。

A6. 北米、日本を中心に自動車生産台数が回復してきている状況を受け、ＡＲＲＫや共和工業の受注が増え始めております。部品の樹脂化やメガキャスト等ついてソリューション事業のターゲットとして考えており、しっかりと取り組んでまいります。

■ICT ソリューションセグメント

Q7. ICT ソリューションが 1Q（4-6 月）から 2Q（7-9 月）にかけて増益となった理由について説明して欲しい。

A7. 2Q に原料価格が下落したことに加えて為替が円安となったことにより、主に交易条件が改善し、増益となりました。

Q8. ICT ソリューションが、4Q（1-3 月）に季節性の需要減があると考えられる中で、上期から下期にかけて増益する理由について説明して欲しい。また、製品ごとの上期から下期にかけての販売動向について説明して欲しい。

A8. 4Q は販売数量減を見込んでいるものの、足元では半導体関連の需要は底打ち感が出てきており、下期は販売数

量の改善を計画しております。スマートフォン市場の需要回復は見込んでいないものの、アペルの販売は底打ちが見えてきており、上期から下期にかけては数量増を見込んでおります。イクロスにつきましては、一般的な半導体関連の需要と同様に、ようやく底を打ったと考えており、4Q は不需要期となるものの、3Q は需要回復に加え需要期となることから、上期から下期にかけては販売数量増を見込んでおります。

Q9. ＥＵＶペリクル透過率 90%品の新規顧客等市場への浸透状況および上期から下期にかけての販売動向について説明して欲しい。

A9. 顧客の状況についてはお話しすることができませんが、全体としてオーダーがしっかり入ってきております。上期は透過率 88%品のオーダーが残っておりましたが、下期は透過率 90%品を出荷しております。透過率 90%品の出荷が遅れた原因は品質の問題ではなく、顧客の状況に合わせて出荷をしております。足元では順調にオーダーをいただいており、上期の遅れを取り戻すほどではないものの、22 年度から 3 割程度の販売数量増加を計画しております。

Q10. ＥＵＶペリクルはメモリ向けにはあまり採用されていないという理解だが、ＤＲＡＭ向けに今後採用される見通しがあるのか説明して欲しい。

A10. ＤＲＡＭ向けについてはもう少し時間がかかるのではないかと考えております。

■ベーシック＆グリーン・マテリアルズセグメント

Q11. ベーシック＆グリーンマテリアルズが 1Q（4-6 月）から 2Q（7-9 月）にかけて減益となった理由ついて説明して欲しい。

A11. 1Q から 2Q にかけて、在庫影響で 20 億円程度悪化、2Q が定修期間であったことに加えてプラントトラブルの影響で 40 億円程度発生したため、63 億円の減益となりました。また、クラッカーの稼働率は 1Q は 80%を若干下回る程度でありましたが、トラブルの影響もあり 2Q の稼働率が下がったことで、上期通期で 70%を若干上回る程度となりました。

Q12. ベーシック＆グリーンマテリアルズが上期から下期にかけて増益する理由ついて説明して欲しい。

A12. 上期から下期にかけて 112 億円の増益を計画しております。80 億円程度の在庫影響に加え、上期の定修およびプラントトラブル影響の解消により改善を見込んでおります。大幅な販売数量の回復や市況の上昇は見込んでおりません。下期のクラッカー稼働率は 80%程度の見通しとなっております。

Q13. 日本のクラッカー稼働率が低い状況もあり、他社では再編や JV 等の話が出てきている中で、ベーシック＆グリーンマテリアルズの事業構造改善をどう考えているのか説明して欲しい。

A13. 足元の損益は厳しい状況が続いております。中国では増強計画が続いており、汎用品市場の需給環境は改善しないと考えております。この構造的な問題は、外部要因による改善はないと考えており、構造改善の第 2 幕に取り組む必要があると考えております。日本国内の汎用品に関しては引き続き構造改善を行ってまいります。ただし、コンビナートを構成する製品群であるため、全体のバランスを取りながら改善を行っていくことになります。短期的にできること、中期的にやるべきもの、長期的にわたるものに区分けしたうえで、各地域の関係する企業と共に取り組んでまいります。

以　上